

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)					
	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	報告書柱状図記事							
					上端深度	下端深度		選定した記事内容				
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度					
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
463	128.82	128.97	破砕帯(主せん断面128.87m)	128.82	128.97	破砕部(最新活動面128.87m)	128.82	128.97	●128.82~128.97m:破砕部 128.82~128.87m:砂混じり岩片状部(Hj) 上端63°で幅1~2mmの軟質緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m:礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜63°で上下とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。 128.88~128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(Ig) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。80~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化する。灰赤色を呈する。幅60mm。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
464	128.82	128.87	Hj 上端・30° 幅1~2mm軟質緑灰色粘土脈で、下端63°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR6/2)。厚さ50~90mm/m	120.02	120.07	Hj 上端・30° 幅1~2mm軟質緑灰色粘土脈で、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤色(2.5YR6/2)。厚さ50~90mm。 やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	128.82	128.97	●128.82~128.97m:破砕部 128.82~128.87m:砂混じり岩片状部(Hj) 上端63°で幅1~2mmの軟質緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m:礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜63°で上下とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。 128.88~128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(Ig) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。80~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化する。灰赤色を呈する。幅60mm。			
465	128.87	128.88	Hc-2 63°で上下とも直線的に連続。φ1~3mm石英粒と岩片を20%程度含む軟質粘土(ワジウ)。色調は暗緑灰(5G 4/1)。厚さ3~5m/m	128.87	128.88	Hc-2 63°で上下とも直線的に連続。φ1~3mm石英粒と岩片を20%程度含む。軟質な礫混じり粘土状(みずみず)を呈する。色調は暗緑灰色(5G 4/1)。厚さ3~5m。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	128.82	128.97	●128.82~128.97m:破砕部 128.82~128.87m:砂混じり岩片状部(Hj) 上端63°で幅1~2mmの軟質緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m:礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜63°で上下とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。 128.88~128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(Ig) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。80~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化する。灰赤色を呈する。幅60mm。			
466	128.88	128.97	Hj 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。80~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ60m/m	128.88	128.97	Hj 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。80~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤色(2.5YR 6/2)。厚さ60mm。やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	128.82	128.97	●128.82~128.97m:破砕部 128.82~128.87m:砂混じり岩片状部(Hj) 上端63°で幅1~2mmの軟質緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m:礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜63°で上下とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。 128.88~128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(Ig) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。80~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化する。灰赤色を呈する。幅60mm。			
467	128.97	129.95	CL	-	-	CL	128.97	129.95	128.97~129.95m:CL			
468	129.11	129.26	風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。	129.11	129.26	風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。マンガノ汚染が見られる。	129.11	129.26	129.11~129.26m:風化が進み、割れ目ぞいに砂状~細片状化する。マンガノ汚染が見られる。			
469	129.95	130.79	CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3m/m砂をはさむが、これ以外では検存物は分布しない。	129.95	130.79	CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3mm砂を挟むが、これ以外では検存物は分布しない。	129.95	130.79	129.95~130.79m:CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。			
470	-	-	-	129.95	130.22	アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	129.95	130.22	129.95~130.22m:アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。			
471	129.95	130.22	(地質名欄)Gp	129.95	130.22	(地質名欄)Ap	129.95	130.22	(地質名欄)アブライト			
472	130.58	130.58	80°とこれと交差する40~60°の割れ目ぞいで幅1~3m/m風化砂はさむ。粘土は伴わない。また、80°の割れ目は交差する一部の割れ目を切っている。	130.58	130.58	80°とこれと交差する40~60°の割れ目ぞいで幅1~3mm風化砂を挟む。粘土は伴わない。また、80°の割れ目は交差する一部の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。砂-石-砂の割れ目周囲の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	130.58	130.58	130.58m:80°とこれと交差する40~60°の割れ目ぞいで幅1~3mmの風化砂を挟む。粘土は伴わない。また、80°の割れ目は交差する一部の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目周囲の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
473	130.79	131.95	CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また部分的に淡緑灰~灰白色粘土細脈(幅1mm以下)を伴う。	130.79	131.95	CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に淡緑灰~灰白色粘土細脈(幅1mm以下)を伴う。	130.79	131.95	130.79~131.95m:CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に幅1mm以下の淡緑灰~灰白色粘土細脈を伴う。			
474	131.79	131.79	55°割れ目上盤側は厚10~15m/m砂状化。灰白色粘土細脈も伴う。	131.79	131.79	55°割れ目上盤側は幅10~15mm砂状化。灰白色粘土細脈も伴う。	131.79	131.79	131.79m:55°の割れ目上盤側は幅10~15mmで砂状化する。灰白色粘土細脈も伴う。			
475	-	-	-	131.79	134.23	アブライト 上端は55°の割れ目、下端は破砕部となっている。	131.79	134.23	131.79~134.23m:アブライト 上端は55°の割れ目、下端は破砕部となっている。			
476	131.79	133.75	(地質名欄)Gp	131.79	133.75	(地質名欄)Ap	131.79	133.75	(地質名欄)アブライト			

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 選定した記事内容		
477	131.95	132.89	D 風化で締った砂状化が拡大し、φ5~20m/岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や厚1~2m/mの細脈として分布。	131.95	132.89	D 風化で硬質な砂状化が拡大し、φ5~20mm岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や幅1~2mmの細脈として分布。	131.95	132.89	131.95~132.89m: D 風化で硬質な砂状化が拡大し、径5~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体の粘土化部が幅1~2mmの細脈として分布。		
478	132.41	132.60	硬さ「C」の岩片状コア。	-	-	-	132.41	132.60	132.41~132.60m: 硬さ「C」の岩片状コア。		
479	131.95	132.18	硬さ「C」岩片のみ採取され。風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	-	-	-	131.95	132.41	131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「C」の岩片のみ採取され。風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	・記事内容が同じであるため、132.32~132.41mの深度も含めて記載した	
480	131.95	132.89	(変質帯)コランク	131.95	132.89	(変質帯)コランク	131.95	132.89	(変質帯)コランク		
481	132.32	132.41	硬さ「C」岩片のみ採取され。風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	-	-	-	-	-	-	・上記にまとめ書きしたため記載しない	
482	132.89	133.24	CL 一部割れ目自じは厚さ1~2m/m程度に砂状化した砂を挟む。	132.89	133.24	CL 一部割れ目自じは厚さ1~2mm程度に砂状化した砂を挟む。	132.89	133.24	132.89~133.24m: CL 一部割れ目自じは幅1~2mm程度で砂状化の砂を挟む。		
483	133.15	133.24	一部で砂状化が拡大している。				133.15	133.24	133.15~133.24m: 一部で砂状化が拡大している。		
484	133.24	133.49	D 砂状化が拡大し、締った砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。	133.24	133.49	D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。	133.24	133.49	133.24~133.49m: D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。		
485	133.24	133.49	(岩級区分欄)D	133.24	133.49	(岩級区分欄)CL	133.24	133.49	(岩級区分欄)CLに含める		
486	133.49	133.76	CL 20~30°と60~70°割れ目が交差し、割れ目が多くなっている。	133.49	133.75	CL 20~30°と60~70°割れ目が交差し、割れ目が多くなっている。	133.49	133.75	133.49~133.75m: CL 20~30°と60~70°の割れ目が交差し、割れ目が多くなる。		
487	133.75	133.92	破砕帯(主せん断面133.75m)	133.75	133.92	破砕帯(最新活動面133.75m)			●133.75~133.92m: 破砕帯 133.75m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片多量含まない。軟質。明緑灰色を呈する。幅0.5~1mm。 133.75~133.80m: 粘土質礫状部(Hb) 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」の岩片を20~30%含む。やや軟質。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。緑灰色を呈する。幅30~40mm。 133.80~133.92m: 粘土混じり岩片状部(Hg) 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布する。上端側が緑灰色、下端側がオリーブ灰色を呈する。幅100mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
488	133.75	133.75	Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(ガウツ)。色調は明緑灰色(10G 7/1)、厚さ0.5~1m/m	133.75	133.75	Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(ガウツ)。色調は明緑灰色(10G 7/1)、厚さ0.5~1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。					
489	133.75	133.80	Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや軟質な「粘土質礫状」を呈する。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)、厚さ30~40m/m	133.75	133.80	Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや軟質な「粘土質礫状」を呈する。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)、厚さ30~40mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	133.75	133.92			
490	133.80	133.92	Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ9~10m/m岩片で、岩片間は幅1~2m/m灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ100m/m	133.80	133.92	Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ9~10mm岩片で、岩片間は幅1~2mm灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)、厚さ100mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。					
491	133.75	133.92	(岩級区分欄)D	133.75	133.92	(岩級区分欄)CL	133.75	133.92	(岩級区分欄)CLに含める		
492	133.92	134.15	硬さ「C」主体	133.92	134.15	硬さ「D」主体	133.92	134.15	133.92~134.15m: 硬さ「D」主体		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			
493	134.15	134.23	破砕帯(主せん断面134.15m)	134.15	134.23	破砕部(最新活動面134.15mか134.19mの可能性あり)			●134.15～134.23m: 破砕部 134.15～134.19m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜65°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。上端側はオリブ灰色。中央部は明オリブ灰色。下端側は暗オリブ灰色で、3色の縞状を呈する。幅20mm。 134.19～134.23m: 粘土混じり岩片状部(Hg) 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。径5～20mmの岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。色調はオリブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ30mm以上。
404	134.15	134.10	Hc-1 75°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質粘土(クワン)。下端側にφ0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。 色調は上端側・オリブ灰色(2.5GY 5/1)、中央・明オリブ灰色(2.5GY 7/1)、下端・暗オリブ灰色(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する。厚さ20mm/m	134.15	134.10	Hc-1 65°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質粘土(クワン)。下端側にφ0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。 色調は上端側・オリブ灰色(2.5GY 5/1)、中央・明オリブ灰色(2.5GY 7/1)、下端・暗オリブ灰色(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する。厚さ20mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	134.15	134.23	
495	134.19	134.23	Hj 上端76°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。 φ5～20mm岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。 色調はオリブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ30mm/m以上。	134.19	134.23	Hj 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。 φ5～20mm岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。 色調はオリブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ30mm以上。 含まれる岩片は硬質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は機械割れのため不明。			
496	134.15	134.23	(岩級区分欄)D	134.15	134.23	(岩級区分欄)CL	134.15	134.23	(岩級区分欄)CLに含める
497	134.23	134.65	(実質欄)3ランク	134.23	134.65	(実質欄)2ランク	134.23	134.65	(実質欄)2ランク
498	134.23	134.77	CL 細粒玄武岩(ドレライト)下盤側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	134.23	134.77	CL アブライト下盤側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	134.23	134.77	134.23～134.77m: CL アブライト下盤境界の直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。
499	134.23	134.33	DcとOpが混在した岩相を呈する。色も緑灰色。	134.23	134.33	ApとOpが混在した岩相を呈する。色も緑灰色。	134.23	134.33	134.23～134.33m: アブライトと花崗斑岩が混在した岩相を呈する。緑灰色を呈する。
500	134.77	135.34	D 土砂状～φ10mm/細岩片状部が主体	134.77	135.34	D 土砂状～φ10mm/細岩片状部が主体	134.77	135.34	134.77～135.34m: D 土砂状～径10mmの細岩片状部が主体。
501	135.34	145.65	CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。 硬さ「B」は上端の135.34～136.50mに小分布。 一部で密着度の低い岩割れ目を含んでいる。 硬さ「E」は割れ目沿いに風化が広がりφ5～10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50～136.64m、137.44～137.60m、139.87～140.04mにコア長15cm前後で分布する。	135.34	145.65	CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。 硬さ「B」は上端の135.34～136.50mに小分布。 一部で密着度の低い岩割れ目を含んでいる。 硬さ「E」は割れ目沿いに風化が広がりφ5～10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50～136.64m、137.44～137.60m、139.87～140.04mにコア長15cm前後で分布する。	135.34	145.65	135.34～145.65m: CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。硬さ「B」は135.34～136.50mに小分布。一部で密着度の低い岩割れ目を含む。 136.50～136.64m、137.44～137.60m、139.87～140.04m間は、コア長15cm前後で、割れ目沿いに風化が広がりφ5～10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、硬さ「E」となる。
502	136.40	-	136.40m以深でφ2～3mm/の暗緑灰色 緑泥石斑点が点在する。	136.40	-	136.40m以深でφ2～3mmの暗緑灰色 緑泥石斑点が点在する。	136.40	-	136.40m以深は径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。
503	136.54	136.54	35° 幅10～15mでアブライトがφ5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	136.54	136.54	35° 幅10～15mでアブライトがφ5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	136.54	136.54	136.54m: 35°で幅10～15mmのアブライトが径5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。
504	137.44	137.53	φ5～10mm/破砕状の細粒主体。	137.44	137.53	φ5～10mm/破砕状の細粒主体。連続する細粒部は伴わない。	137.44	137.53	137.44～137.53m: 径5～10mmの細粒主体。連続する細粒部は伴わない。
505	137.53	137.60	締った砂状部も含む。	137.53	137.60	硬質な砂状部も含む。	137.53	137.60	137.53～137.60m: 硬質な砂状部を含む。
506	137.68	137.68	色調が変化。	-	-	-	-	-	・色調欄から読み取れるため記載しない
507	-	137.68	137.68m以深は褐色を帯びる。これはカリ長石が多いため。	-	-	-	-	137.68	137.68m以深はカリ長石が多く、褐色を帯びる。
508	137.68	-	137.68m以深は淡緑灰色を帯び、これは緑泥石を多く含むためと推定される。	-	-	-	137.68	-	137.68m以深は緑泥石を多く含む淡緑灰色を帯びる。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容
509	-	-	-	137.82	137.97	弱い変質を受け、砂～細礫状を呈する。 やや軟質。	137.82	137.97	137.82～137.97m: 弱い変質を受け、やや軟質な砂～細礫状を呈する。
510	138.00	138.30	割れ目の一部は砂状化し、厚1～2mmの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。	138.00	138.30	割れ目の一部は砂状化し、幅1～2mmの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。	138.00	138.30	138.00～138.30m: 割れ目の一部は砂状化し、幅1～2mmの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。
511	-	-	-	138.40	139.20	アブライト 上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。	138.40	139.20	138.40～139.20m: アブライト 上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。
512	138.40	139.20	(地質名欄)Op	138.40	139.20	(地質名欄)Ap	138.40	139.20	(地質名欄)アブライト
513	138.75	138.75	80° 割れ目に厚さ1m/㎡方解石脈はさむ。この脈は138.67m～38° 割れ目で切られている。	138.75	138.75	80° 割れ目に厚さ1mm方解石脈はさむ。この脈は138.67m～38° 割れ目で切られている。	138.75	138.75	138.75m: 80° の割れ目に幅1mmの方解石脈を挟む。
514	139.67	139.67	75° 割れ目の一部が厚さ5mm程度砂状化。	139.67	139.67	75° 割れ目の一部が厚さ5mm程度砂状化。	139.67	139.67	139.67m: 75° の割れ目の一部が幅5mm程度砂状化する。
515	139.07	140.04	30° と80° 割れ目が細かく交差し、φ5～10mm/㎡細礫状～粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。	139.07	140.04	30° と80° 割れ目が細かく交差し、φ5～10mm/㎡細礫状～粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。	139.07	140.04	139.07～140.04m: 30° と80° の割れ目が細かく交差し、径5～10mmの細礫状～粗粒砂状に砕ける。粘土は殆んど伴わない。
516	140.04	145.65	厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目沿いに厚さ1～5mm程度にφ1～3mmに砂状～片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低いゆる割れ目が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。	140.04	145.65	厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目沿いに厚さ1～5mm程度にφ1～3mmに砂状～片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い潜割れ目が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。	140.04	145.65	140.04～145.65m: 厚さ10cmを超える砂礫状の風化部は分布しないが、割れ目沿いに幅1～5mm程度で径1～3mmに砂状～片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い潜在割れ目が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずかである。
517	141.10	141.18	40° 割れ目ぞい砂状化。φ5～10mm/㎡硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	141.10	141.18	40° 割れ目ぞい砂状化。φ5～10mm/㎡硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	141.10	141.18	141.10～141.18m: 40° の割れ目ぞいに砂状化する。径5～10mmの硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。
518	-	-	-	141.35	141.96	アブライト 上下端とも機械割れのため不明	141.35	141.96	141.35～141.96m: アブライト 上下端とも機械割れのため不明。
519	141.35	141.96	(地質名欄)Op	141.35	141.96	(地質名欄)Ap	141.35	141.96	(地質名欄)アブライト
520	141.96	142.23	互いにほぼ直交する60° 系と30° 系の割れ目が細かく交差し、φ5～10mm/㎡主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1～2mm程度に砂状化。粘土は伴わない。	141.96	142.23	互いにほぼ直交する60° 系と30° 系の割れ目が細かく交差し、φ5～10mm/㎡主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1～2mm程度に砂状化。粘土は伴わない。	141.96	142.23	141.96～142.23m: 互いにほぼ直交する60° と30° の割れ目が細かく交差し、径5～10mm主体に細片化する。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部幅1～2mm程度で砂状化する。粘土は伴わない。
521	142.91	144.90	割れ目間隔は上下位に比べやや広がるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。	142.91	144.90	割れ目間隔は上下位に比べやや広がるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。	142.91	144.90	142.91～144.90m: 割れ目間隔は上下位に比べやや広がるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。
522	143.57	143.70	上端60°、下端70° 割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5～10mm/㎡石英を脈状に伴う。	143.57	143.70	上端60°、下端70° 割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5～10mm/㎡石英を脈状に伴う。	143.57	143.70	143.57～143.70m: 上端60°、下端70° の割れ目ぞいに緑泥石化が強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60° で幅5～10mmの石英を脈状に伴う。
523	145.65	148.26	D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、綿った砂状を呈し、φ5～20mm/㎡で残留する岩片も含め、砂礫状～礫質砂状を呈する。一部で少量ながら灰白色～暗緑灰色粘土が脈状に分布。	145.65	148.26	D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、硬質な砂状を呈し、φ5～20mm/㎡で残留する岩片も含め、砂礫状～礫質砂状を呈する。一部で少量ながら灰白色～暗緑灰色粘土が脈状に分布。	145.65	148.26	145.65～148.26m: D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、硬質な砂状を呈し、径5～20mmで残留する岩片も含め、砂礫状～礫質砂状を呈する。一部で灰白～暗緑灰色粘土が脈状に分布する。
524	145.65	146.00	(風化欄)δランク (変質欄)δランク (岩級区分欄)D	145.65	146.00	(風化欄)αランク (変質欄)δランク (岩級区分欄)DL	145.65	146.00	(風化欄)αランク (変質欄)δランク (岩級区分欄)CL
525	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Eランク	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Dランク	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Dランク
526	145.74	148.01	145.74～148.00m、148.91～147.50mは硬さ「D」主体の、147.01～148.01mは硬さ「C」の各々、中石的に分布	-	-	-	145.74	148.01	145.74～148.00m、148.91～147.50mは硬さ「D」主体の、147.01～148.01mは硬さ「C」のコアが中石的に分布する。
527	146.65	146.91	深度と共に残留する岩片量が増加する	-	-	-	146.65	146.91	146.65～146.91m: 深度と共に残留する岩片量が増加する。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容
528	146.91	147.50	硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	146.91	147.50	硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	146.91~147.50m: 硬さ「D」の岩片主体であるが、割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。
529	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Eランク	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Dランク
530	146.91	148.26	(岩級区分欄)D	146.91	148.26	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CL
531	147.00	147.65	(風化欄)γランク (変質欄)3ランク	147.00	147.65	(風化欄)γランク (変質欄)2ランク	(風化欄)γランク (変質欄)2ランク
532	-	-	-	147.50	147.82	上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。	147.50~147.82m: 上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。
533	147.65	147.65	55°割れ目に厚さ1~2mm暗緑灰色緑泥石脈はさむ。砂状~シルト状化している。	147.65	147.65	55°割れ目に厚さ1~2mm暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状~シルト状化している。	147.65m: 55°の割れ目に幅1~2mmの暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状~シルト状化する。
534	147.81	148.01	硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。	-	-	-	147.81~148.01m: 硬さ「C」のコアが残留。割れ目は多いが、挟在物は分布しない。
535	148.26	149.19	CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。	148.26	149.19	CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。	148.26~149.19m: CL 上端55°、下端50°のほぼ同方向の割れ目で囲まれる。
536	148.68	148.68	50°、厚1~3mm暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。 同脈は微細(φ0.1mm/m)のセリサイトを少量伴う。	148.68	148.68	50°、幅1~3mm暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。 同脈は微細(φ0.1mm)のセリサイトを少量伴う。	148.68m: 50°で幅1~3mmの暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。同脈は径0.1mmの微細なセリサイトを少量伴う。
537	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに厚1~2mmで砂状化する部分がある。	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに幅1~2mmで砂状化する部分がある。	148.84m以深、割れ目ぞいに幅1~2mmで砂状化する部分がある。
538	149.19	149.67	D 割れ目ぞいに風化が拡大し締った砂状を呈する。岩片はφ10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。 下端の149.69mは40°、厚さ1mm暗緑灰色の砂状~シルト状で緑泥石脈はさむ。	149.19	149.67	D 割れ目ぞいに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片はφ10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。 下端の149.67mは40°、厚さ1mm暗緑灰色の砂状~シルト状で緑泥石脈を挟む。	149.19~149.67m: D 割れ目ぞいに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片は径10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。灰白色粘土がわずかに点在する。下端の149.67mは40°で幅1mmの暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。
539	149.19	149.67	(岩級区分欄)D	149.19	149.67	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CLに含める
540	-	-	-	149.41	149.41	34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	149.41m: 34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土を挟む。
541	149.67	152.10	CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。	-	-	-	149.67~152.10m: CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。
542	149.67	150.22	硬さCで割れ目の一部に砂などを挟む。	149.67	150.22	硬さ「C」で割れ目の一部に砂などを挟む。	149.67~150.22m: 硬さ「C」で割れ目の一部に砂などを挟む。
943	130.22	130.32	上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。 下端の130.32mは48°、幅1~2mmで砂~シルト状の緑泥石脈、微細な真鉄鉱を伴う。	130.22	130.32	上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。 下端の130.32mは48°、幅1~2mmで砂~シルト状の緑泥石脈、微細な真鉄鉱を伴う。	130.22~130.32m: 上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。下端の130.32mは48°で幅1~2mmの砂~シルト状の緑泥石脈や微細な真鉄鉱を伴う。
544	150.22	150.52	(変質欄)3ランク	150.22	150.52	(変質欄)2ランク	(変質欄)2ランク
545	150.52	152.10	硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが概ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	150.52	152.10	硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが概ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	150.52~152.10m: 硬さCで、一部で割れ目ぞいに強風化するが、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。
546	150.52	-	150.52m以深は岩片にφ1~3mm暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。	130.02	-	150.52m以深は岩片にφ1~3mm暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。	150.52m以深は径1~3mmの暗緑灰色斑点が点在したり、割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが、粘土化などの劣化はない。
547	151.40	151.60	割れ目が密集し、φ10mm程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	151.40	151.88	割れ目が密集し、φ10mm程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	151.40~151.88m: 割れ目が密集し、径10mm程度の岩片状を呈する。割れ目の面の大半に挟在物は付着しない。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事	記事	
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
548	152.10	152.15	破砕帯(主せん断面152.11m)	152.10	152.15	破砕部(最新活動面152.11m)				
549	152.10	152.11	Hj 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。主せん断面と直交する割れ目が多く、φ5~10m/mに硬さ「D」で岩片化。色調はにぶい橙(5YR 6/3)、厚さ15m/m	152.10	152.11	Hj 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、φ5~10mmに硬さ「D」で岩片化した粘土混じり硬状を呈する。色調はにぶい橙(5YR 6/3)、厚さ15mm やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
550	152.11	152.11	Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1~2m/mの石英粒。岩片を約20%程含む軟質粘土(ガウジ)。厚さ1m/m。暗緑灰色。	152.11	152.11	Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mmの石英粒。岩片を約20%程含む軟質な硬混じり粘土(砂シ)。厚さ1mm。暗緑灰色 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	152.10	152.15	●152.10~152.10m:破砕部 152.10~152.11m:粘土混じり硬状部(Hj) 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、径5~10mmに硬さ「D」で岩片化している。にぶい橙を呈する。幅15mm。 152.11m:硬混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜68°で上下端とも直線的に連続。径1~2mmの石英粒。岩片を約20%程含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅1mm。 152.11~152.15m:砂-粘土混じり岩片状部(Hj) 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片を主体(一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化する。緑灰~明褐色を呈する。幅20~50mm。	
551	152.11	152.15	Hj 上端68°で直線的に、下端65°で波打って連続。φ3~5m/岩片主体(一部φ10m/m)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂-粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ20~90m/m	152.11	152.15	Hj 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。φ3~5mm岩片主体(一部φ10mm)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂-粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ20~50mm。 やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
552	152.15	153.59	CL 風化で全体が硬さ「C」。割れ目が多く、152.51m以深では互いに交差する割れ目でφ10~20m/m程度の岩片が主体。 割れ目の一部に砂を1m/m程度は含むことがある。	152.15	153.59	CL 風化で全体が硬さ「C」。割れ目が多く、152.51m以深では30~50°程度の互いに交差する割れ目でφ10~20m/m程度の岩片が主体。 割れ目の一部に砂を1mm程度含むことがある。	152.15	153.59	152.15~153.59m:CL 風化で全体が硬さ「C」で、割れ目が多く、152.51m以深では30~50°程度の互いに交差する割れ目で径10~20mm程度の岩片が主体。割れ目の一部に砂を幅1mm程度含む。	
553	152.10	152.15	(岩級区分欄)D	152.10	152.15	(岩級区分欄)OL	152.10	152.15	(岩級区分欄)CLに含める	
554	153.30	153.47	緑泥石が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	153.32	153.43	緑泥石が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	153.32	153.43	153.32~153.43m:緑泥石化が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	
555	153.59	154.53	D 風化で割れ目自在に砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。	153.59	154.53	D 風化で割れ目自在に砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。	153.59	154.53	153.59~154.53m:D 風化で割れ目自在に砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。	
556	154.00	-	154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	154.00	-	154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	154.00	-	154.00m以深では硬さ「C」「D」の岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	
557	-	154.00	154.00m以浅は岩片量が多い。	-	-	-	-	154.00	154.00m以浅は岩片量が多い。	
558	153.60	153.76	緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1mm/セリサイトを伴う。	153.60	153.76	緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1mm/セリサイトを伴う。	153.60	153.76	153.60~153.76m:緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが、赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1mmのセリサイトを伴う。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

札名: H27-B-2			コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
559	154.53	154.71	破砕帯(干せん断面154.58m)	154.53	154.71	破砕部(最新活動面154.58m)							
560	154.53	154.58	Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2~3m/m石英粒。φ3~10m/m粘土化~硬さ[D]岩片20~30%含む軟質な「軟質粘土状」を呈する。中央の緑灰色粘土は軟弱。色調は上端・明緑灰色(5G 7/1)、中央・緑灰(5G5/1)、下端・灰褐色(5YR 6/2)の連続。厚さ40~50mm。	154.53	154.58	Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2~3m/m石英粒。φ3~10mm粘土化~硬さ[D]岩片20~30%含むやや軟質な「粘土質塊状」を呈する。中央の緑灰色粘土は軟弱。色調は上端・明緑灰色(5G 7/1)、中央・緑灰色(5G5/1)、下端・灰褐色(5YR 6/2)の連続。厚さ40~50mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	154.53	154.58					
561	154.58	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2m/m石英粒をわずかに(5%以内)に含む軟質粘土(ガウツ)。色調は上下端側が緑灰(7.5YR 6/1)、中央が灰赤(2.5YR 6/2)の連続を呈する。厚さ5m/m。	154.58	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2m/m石英粒をわずかに(5%以内)に含む軟質粘土(ガウツ)。色調は上下端側が緑灰(7.5YR 6/1)、中央が灰赤(2.5YR 6/2)の連続を呈する。厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	154.53	154.71					
562	154.58	154.71	Hj 上端は36°で直線的、下端は65~70°で湾曲しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、φ3~5mm/mに細かく片状化。岩片間には幅1~3m/mの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。色調は上端・明緑(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)、厚さ5mm/m	154.58	154.71	Hj 上端は36°で直線的、下端は65~70°で湾曲しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、φ3~5mmに細かく片状化。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。色調は上端・明緑(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)、厚さ5mm/m やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	154.53	154.71					
563	154.71	155.00	D 軟化著しいが、割れ目は残留する	154.71	155.00	D 軟化著しいが、割れ目は残留する	154.71	155.00					
564	155.00	162.00	OL 割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。	155.00	160.00	OL 割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。	155.00	160.00					
565	155.00	158.00	(変質層)3ランク	155.00	158.00	(変質層)2ランク	155.00	158.00					
900	-	-	-	155.89	155.89	88°の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟み残す	155.89	155.89					
567	156.25	156.25	75~80° 厚さ7~8mm/mでφ2~3mm/mに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。	156.25	156.25	75~80° 厚さ7~8mm/mでφ2~3mm/mに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。	156.25	156.25					
568	156.72	156.72	75~80° 厚さ1~10m/mの固結砂状部がφ1~2m/mφ偏平塊状部を挟んで上下方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鏡肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。	156.72	156.72	75~80° 厚さ1~10mmの硬質な砂状部がφ1~2m/mφ偏平塊状部を挟んで上下方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鏡肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。 156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目に充填している。	156.72	156.72					
569	158.00	158.20	φ5~10m/m破砕塊状部と固結砂状部からなり砂塊状を呈する。	158.00	158.20	φ5~10mm破砕塊状部と硬質な砂状部からなり砂塊状を呈する。	158.00	158.20					
570	159.06	159.33	割れ目ぞいに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20mm/mで分布。岩片自身も岩芯まで暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	160.06	160.33	割れ目ぞいに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20mm/mで分布。岩片自身も岩芯まで暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	159.06	159.33					
571	159.78	159.78	70~80° 厚さ1~10m/m方解石が膨縮しながら連続する。	159.78	159.78	70~80° 厚さ1~10mm方解石が膨縮しながら連続する。	159.78	159.78					

H24-B14-2

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事		
上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	適正化した記事内容		
1	0	6.66	掘土 (bl層)	0.00	6.66	0.00~6.66m: 掘土 (bl層)	0.00	6.66	0.00~6.66m: 掘土	
2	0	3.47	細~シルト混じり砂 φ5~30mmの角~歪角砕を5~10%程度混入。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫が混入する。礫の混入状況は不均質で、少ない部分と多い部分の差が認められる。	0.00	3.47	0.00~3.47m: 細~シルト混じり砂 φ5~30mmの角~歪角砕を5~10%程度混入。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫を混入する。礫の分布は不均質で、少ない部分と多い部分が見られる。	0.00	3.47	0.00~3.47m: 細~シルト混じり砂 φ5~30mmの角~歪角砕を5~10%程度混入。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫を混入する。礫の分布は不均質で、少ない部分と多い部分が見られる。	
3	3.47	3.93	コンクリート 柱状コアにて採取。硬質である。	3.47	3.93	コンクリート 柱状コアで硬質である。	3.47	3.93	3.47~3.93m: コンクリート 柱状コアで硬質である。	
4	3.93	4.28	グリ石 泥岩、φ20~40mmの角礫主体。	3.93	4.28	グリ石 粘板岩、φ20~40mmの角礫主体。	3.93	4.28	3.93~4.28m: グリ石 φ20~40mmの粘板岩の角礫からなる。	
5	4.28	6.66	シルト混じり硬質砂 粗~細粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの歪角砕を主とし、礫含有率10~20%程度。風化礫やクワリ礫を含む。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫が混入する。	4.28	6.66	シルト混じり硬質砂 粗~細粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの歪角砕を主とし、礫含有率10~20%程度。風化礫やクワリ礫を含む。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫を混入する。	4.28	6.66	4.28~6.66m: シルト混じり硬質砂 粗~細粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの歪角砕を主とし、礫含有率10~20%程度。風化礫やクワリ礫を含む。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫を混入する。	
6	5.13	5.19	有機物混じり砂を含む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を混入。全体に若干有機質である。	5.23	5.29	有機物混じり砂を含む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を混入。全体に若干有機質である。	5.23	5.29	5.23~5.29m: 有機物混じり砂を含む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を混入。全体に若干有機質である。	
7	5.13	5.19	(色調欄)灰褐(10YR5/1)	5.23	5.29	(色調欄)灰褐(10YR5/1)	5.23	5.29	(色調欄)灰褐	
8	6.66	8.39	硬質砂	-	-	-	6.66	8.39	6.66~8.39m: 硬質砂	
9	6.66	6.82	少量の粗粒砂を混入する細粒砂。少量の未分解木片を混入。	6.66	6.82	少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。	6.66	6.82	6.66~6.82m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。	
10	6.82	8.08	粗~細粒砂からなり(7.45m以上ではシルトが混入)。全体にφ2~5mmの礫種が混入。礫種は角~歪角砕を主とする。礫種はOp、Ap及び石英からなる。	-	-	-	6.82	8.08	6.82~8.08m: 粗~細粒砂からなり、7.45m以上ではシルトが混入。全体にφ2~5mmの礫種が混入。礫種は角~歪角砕を主とする。礫種はOp、Ap及び石英からなる。	
11	7.10	7.10	上部7.10m付近まで石英細礫(φ5~10mm程度)を多く混入する。炭化物も礫状に含む。	7.10	7.10	上部7.10m付近まで石英細礫(φ5~10mm程度)を多く含む。炭化物も礫状に含む。	7.10	7.10	7.10m付近までφ5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も礫状に含む。	
12	7.10	-	φ5~30mmの風化礫及び半風化礫を混入。	7.10	8.08	φ5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。	7.10	8.08	7.10~8.08m: φ5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。	
13	7.30	7.30	7.30m付近。未分解の礫物混入する。	7.30	7.30	7.30m付近。未分解の礫物を含む。	7.30	7.30	7.30m付近。未分解の礫物を含む。	
14	6.82	7.43	上部はシルト質。下部は硬質となる。	6.82	7.65	上部はシルト質。下部は硬質となる。	6.82	7.65	6.82~7.65m: 上部はシルト質。下部は硬質となる。	
15	7.70	7.70	7.70m付近。炭化物を混入する。	7.70	7.70	7.70m付近。炭化物を含む。	7.70	7.70	7.70m付近。炭化物を含む。	
16	8.08	8.39	砂は石英、長石主体で粗~中粒砂。均質であるが、8.30m以上から若干の有機物を混入。	8.08	8.39	砂は石英、長石主体で粗~中粒砂。均質であるが、8.30m以上から若干の有機物を混入。	8.08	8.39	8.08~8.39m: 砂は石英、長石主体で粗~中粒砂。均質であるが、8.30m以上から若干の有機物を混入。	
17	8.39	8.83	砂混じり有機質シルト	8.39	8.83	砂混じり有機質シルト	8.39	8.83	8.39~8.83m: 砂混じり有機質シルト	
18	8.39	8.83	(地質名欄)砂混じり有機質シルト	8.39	8.83	(地質名欄)砂混じり有機質シルト	8.39	8.83	(地質名欄)砂混じり有機質シルト	
19	8.39	8.53	φ3cm角礫を混入。粗粒砂が主。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片が混入する。	8.39	8.53	φ1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。	8.39	8.53	8.39~8.53m: φ1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。	
20	8.53	8.83	45~50° 傾斜で有機物及び炭化木片が混入。所々、粗粒砂を混入している。	8.53	8.83	45~50° 傾斜で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂を混入している。	8.53	8.83	8.53~8.83m: 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂を混入している。	
21	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層をはさむ。	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。	
22	8.83	9.54	有機物混じり砂	8.83	9.54	有機物混じり砂	8.83	9.54	8.83~9.54m: 有機物混じり砂	
23	8.83	9.54	(地質名欄)有機物混じり砂、砂礫	8.83	9.54	(地質名欄)有機物混じり砂	8.83	9.54	(地質名欄)有機物混じり砂	
24	8.83	9.10	有機物混じり砂 粗粒砂を主とし、石英細礫と石英混入。少量の炭化物を混入。	8.83	9.10	有機物混じり砂 粗粒砂を主とし、石英細礫と石英混入。少量の炭化物を含む。	8.83	9.10	8.83~9.10m: 有機物混じり砂 粗粒砂を主とし、石英細礫と石英混入。少量の炭化物を含む。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: I124-D14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追加した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
25	-	-	8.90	8.97	生木多含む。	8.90	8.97	8.90~8.97m: 生木多含む。	
26	9.10	9.20	-	-	-	9.10	9.20	9.10~9.20m: 有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。	-
27	9.13	9.15	9.13	9.15	極細砂粒(火山灰?)を薄層状に挟む。下部は細砂や粗砂、砂質シルト～シルト質砂状。	9.13	9.15	9.13~9.15m間は極細砂粒を薄層状に挟む。下部は細砂や粗砂、砂質シルト～シルト質砂状を呈する。	-
28	9.28	9.54	9.28	9.54	細粒砂を主とするが不均質で、φ0.5~1cmの石英角礫を混入し、粘土分を少量~中位で混入する。また、炭化物片、未分解繊維も少量混入。	9.28	9.54	9.28~9.54m: 細粒砂を主とするが不均質で、径0.5~1cmの石英角礫を混入し、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。	-
29	9.54	11.12	9.54	11.12	砂礫 φ2~50mmの花崗岩が主体。基質は少量の粘土分を混入する粗~中粒砂。	9.54	11.12	9.54~11.12m: 砂礫 径2~50mmの花崗岩が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。	-
30	9.54	9.71	9.54	9.71	φ17cm玉石混入。	9.54	9.71	9.54~9.71mに径17cmの玉石を含む。	-
31	10.70	10.72	10.70	10.72	細砂を薄層状に挟む。	10.70	10.72	10.70~10.72m: 細砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。	-
32	11.12	12.04	11.12	12.04	塊状中粒砂 φ2~5mm石英角礫を5~10%程度混入する。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を混入する。 (地質名欄)塊状中粒砂	11.12	12.04	11.12~12.04m: 塊状中粒砂 φ2~5mmの石英の角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を含む。 (地質名欄)塊状中粒砂	-
33	11.12	11.66	11.12	11.66	(地質名欄)塊状中粒砂	11.12	11.66	(地質名欄)塊状中粒砂	-
34	11.40	11.42	11.40	11.42	幅10mmの灰白色シルトをはさむ。	11.40	11.42	幅10mmの灰白色シルトを挟む。	-
35	11.53	11.55	11.53	11.55	幅15mmの灰白色シルトをはさむ。	11.53	11.55	幅15mmの灰白色シルトを挟む。	-
36	11.66	11.79	11.66	11.79	スライム	11.66	11.79	スライム 黄褐色のシルト混じり粗粒砂からなる。	-
37	11.66	11.79	11.66	11.79	(地質名欄)スライム	11.66	11.79	(地質名欄)コア欠知	-
38	11.79	12.04	11.79	12.04	(地質名欄)塊状中粒砂	11.79	12.04	(地質名欄)塊状中粒砂	-
39	12.04	12.69	-	-	有機物混じり砂 細砂~中粒砂を主とし、部分的にシルト質(有機物混じり)となる。有機物は20~30° 傾斜する。 (地質名欄)有機物混じり砂	12.04	12.69	12.04~12.69m: 有機物混じり砂 細~中粒砂を主とし、部分的に有機物混じりシルト質となる。有機物は傾斜20~30°を呈する。 (地質名欄)有機物混じり砂	-
40	12.04	12.69	12.04	12.69	(地質名欄)有機物混じり砂	12.04	12.69	(地質名欄)有機物混じり砂	-
41	12.13	12.13	12.13	12.13	12.13m付近、有機質シルトの薄層	12.13	12.13	12.13m付近、有機質シルトの薄層を挟む。	-
42	12.37	12.41	12.37	12.41	厚さ4cmの有機質シルト	12.37	12.41	12.37~12.41m: 厚さ4cmの有機質シルトを挟む。	-
43	12.65	12.67	-	-	有機質シルトを薄層状に挟む。	12.65	12.67	12.65~12.67m: 有機質シルトを薄層状に挟む。	-
44	12.70	12.73	-	-	有機質シルトを薄層状に挟む。	12.70	12.73	12.70~12.73m: 有機質シルトを薄層状に挟む。	-
46	12.69	13.09	-	-	有機物混じり砂質シルト シルト~中粒砂からなり、全体に有機物が混じる。	12.69	13.09	12.69~13.09m: 有機物混じり砂質シルト シルト~中粒砂からなり、全体に有機物が混じる。	-
46	12.69	13.09	12.69	13.09	(地質名欄)有機物混じり砂質シルト	12.69	13.09	(地質名欄)有機物混じり砂質シルト	-
47	12.76	12.85	12.76	12.85	石英斑岩の垂角礫φ2~4cmが主体となる。	12.76	12.85	12.76~12.85m: 径2~4cmの花崗岩の垂角礫を含む。	-
48	12.85	13.09	-	-	砂混じり粘土で、下部砂質粘土状である。上部13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部に比べて少なくなる。	12.85	13.09	12.85~13.09m: 砂混じり粘土で、下部は砂質粘土状である。13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部は少なくなる。	-
49	13.09	13.80	13.09	13.80	シルト混じり砂 細砂を主とする砂に、全体にシルトが混じる。 (地質名欄)シルト混じり砂	13.09	13.80	13.09~13.80m: シルト混じり砂 細砂を主とする砂に全体にシルトが混じる。 (地質名欄)シルト混じり砂	-
50	13.09	13.80	13.09	13.80	(地質名欄)シルト混じり砂	13.09	13.80	(地質名欄)シルト混じり砂	-
51	13.30	13.30	-	-	13.30m付近から色調変化	-	-	-	色調で読み取れる情報のため記載しない
52	13.17	13.80	13.17	13.80	13.17~13.80m付近、シルト~粘土分を10~20%混入する。	13.17	13.80	13.17~13.80mはシルト~粘土分を含む。13.60~13.80mは均質な粗~極細粒砂からなる。	シルト混じり砂の区間の記載をまとめて書き加えた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		
			細砂 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	細砂 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)				
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		選定した記事内容		
53	13.40	13.40	13.40m付近 φ5~7mmの石英砂を約5%含む。	-	-	13.40m付近 径5~7mmの石英砂を約5%含む。	-	
54	13.60	13.80	13.60~13.80m付近、粒径の均一な細~微細粒砂となる。 砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の歪角~歪円礫を主とし、所々φ40~70mmの円~歪円礫が混入する。礫種は花崗斑岩が主体。礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ、浸食=1	13.60 13.80	13.60~13.80m付近、粒径の均一な細~微細粒砂となる。 砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の歪角~歪円礫を主とし、所々φ40~70mmの円~歪円礫を主とし、所々φ40~70mmの円~歪円礫を含む。礫種は花崗斑岩が主体。礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ、浸食=1	13.60 13.80	13.60~13.80m: 砂礫 径2~40mm(最大径330mm)の歪角~歪円礫を主とし、所々、径40~70mmの円~歪円礫を含む。礫種は花崗斑岩が主体で、礫率50~70%程度。基質はシルト混じりの不均質な砂からなる。半クサリ礫と硬質礫の割合は同程度である。	-
55	13.86	16.24	(地質名稱)砂礫	13.80 16.24	(地質名稱)砂礫	13.80 16.24		
56	13.86	16.24	(地質名稱)砂礫	13.80 16.24	(地質名稱)砂礫	13.80 16.24		
57	15.08	15.17	Ap玉石	15.08 15.17	Op玉石	15.08 15.17	15.08~15.17m: 花崗斑岩の玉石を含む。	
58	15.42	15.60	風化Op玉石	-	-	15.42~15.60m: 風化花崗斑岩の玉石を含む。		
59	15.70	16.00	Gp岩塊	15.70 16.00	Gp岩塊	15.70 16.00	15.70~16.00m: 花崗斑岩の岩塊を含む。	
60	16.94	16.94	砂礫とOpの境界は、密着しており、 $\angle 45^\circ$ 程度を示す。	-	-	16.24m: 砂礫と花崗斑岩の境界は密着しており、傾斜 45° 程度を示す。		
61	16.24	16.24	花崗斑岩著岩 実質著しい。全体に軟質化する。	16.24 16.24	花崗斑岩著岩 実質著しい。全体に軟質化する。	-	-	
62	16.24	16.24	Op著岩 Opの斑晶はφ3~8mmの石英、長石を主とし、φ2~5mmの黒雲母が混じる。右基は僅白色である。	16.24 60.65	花崗斑岩 Opの斑晶はφ3~8mmの石英、長石を主とし、φ2~5mmの黒雲母が混じる。右基は僅白色である。	16.24 60.65	16.24~60.65m: 花崗斑岩 斑晶は径3~8mmの石英、長石を主とし、径2~5mmの黒雲母を含む。右基は僅白色である。	
63	16.24	18.68	16.24~18.68 強風化・実質部 全体に実質が認められ、コアは深く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針入可能である。	16.24 18.68	16.24~18.68 強風化・実質部 全体に実質が認められ、コアは深く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針入可能である。	16.24 18.68	16.24~18.68m: 強風化・実質部で、全体に実質が認められ、コアは深く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針入可能である。	
64	16.24	16.64	(色調補)記載なし	16.24 16.64	(色調補)5YR6/1 灰白	16.24 16.64	(色調補) 灰白	
65	16.24	16.94	$\angle 30\sim 50^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟在する。下位に比べて原岩組織を残している。	16.24 16.94	$\angle 30\sim 50^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mm挟在する。下位に比べて原岩組織を残している。	16.24 16.94	16.24~16.94m: 傾斜 $30\sim 50^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。下位に比べて原岩組織を残す。	
66	16.64	18.04	(色調補)記載なし	16.64 18.04	(色調補)5YR6/1 灰白	16.64 18.04	(色調補) 灰白	
67	16.94	18.03	割れ目不明瞭となる。	16.94 18.04	割れ目不明瞭となる。	16.94 18.04	16.94~18.04m: 割れ目不明瞭となる。	
68	17.30	17.58	岩石組織不明瞭となる。指圧で砂混じりシルト状に崩せる。	17.30 17.58	原岩組織不明瞭となる。指圧で砂混じりシルト状に崩せる。	17.30 17.58	17.30~17.58m: 原岩組織が不明瞭で、指圧で砂混じりシルト状に崩れる。	
69	18.04	18.68	割れ目沿いの実質が著しく、新鮮硬質部をφ5~20mmの塊状に残している。軟質部は針入可能である。 $\angle 50\sim 70^\circ$ 及び $\angle 90^\circ$ 程度の割れ目跡が認められ、白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟在する。	18.04 18.68	割れ目沿いの実質が著しく、新鮮硬質部をφ5~20mmの塊状に残している。軟質部は針入可能である。 $\angle 50\sim 70^\circ$ 及び $\angle 90^\circ$ 程度の割れ目跡が認められ、白色細粒物をフィルム状~幅1mm挟在する。	18.04 18.68	18.04~18.68m: 割れ目沿いの実質が著しく、硬質部を径5~20mmの塊状に残す。軟質部は針入可能である。傾斜 $50\sim 70^\circ$ 及び 90° 程度の割れ目跡に白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。	
70	18.04	18.68	(割れ目状指標)のランク (実質補)4ランク	18.04 18.68	(割れ目状指標)のランク (実質補)3ランク	18.04 18.68	(割れ目状指標)のランク (実質補)3ランク	
71	18.33	18.37	実質の影響弱い。上端 $\angle 40^\circ$ 、下層は不明瞭。	18.33 18.37	実質の影響強い。上端 $\angle 40^\circ$ 、下層は不明瞭。	18.33 18.37	18.33~18.37m: 強く実質する。上端 40° 、下層は不明瞭である。	
72	18.68	19.89	実質著しく、割れ目、岩石組織をほとんど残さない。全体に指圧で変形するほど軟質である。	18.68 19.89	実質著しく、割れ目、原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。	18.68 19.89	18.68~19.89m: 実質が著しく、割れ目と原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。	
73	19.19	19.50	巾2cm、灰白~淡黄褐色を呈する。シルト砂混じり粘土層分布。 $\angle 75^\circ$ 程度、凸凹する。	19.19 19.50	幅1~2mmのシルト砂混じり粘土層が分布し、粘土層に沿って幅2cm 灰白~淡黄褐色を呈する。 $\angle 75^\circ$ 程度、凸凹する。	19.19 19.50	19.19~19.50m: 傾斜 75° で凸凹して、幅1~2mmのシルト・砂混じり粘土層が分布し、粘土層に沿って幅2cmが灰白~淡黄褐色を呈する。	
74	19.00	19.25	実質粘土は淡黄褐色を呈する。	19.00 19.25	細目状の実質粘土は淡黄褐色を呈する。	19.00 19.89	19.00~19.25m、19.55~19.89m: 細目状の実質粘土は淡黄褐色を呈する。	記事内容が同じであるため、19.55~19.89mの記事をまとめて記載した
75	19.55	19.89	実質粘土は淡黄褐色を呈する。	19.55 19.89	細目状の実質粘土は淡黄褐色を呈する。	-	-	
76	19.89	20.29	φ~10mm程度の間隔で細目状に割れ目が発達し、実質粘土をフィルム状~巾1mm程度挟在する。岩片は硬質である。	19.89 20.29	φ~10mm程度の間隔で細目状に割れ目が発達し、実質粘土をフィルム状~幅1mm程度挟在する。岩片はやや軟質である。	19.89 20.29	19.89~20.29m、φ~10mm程度の間隔で細目状に割れ目が発達し、実質粘土をフィルム状~幅1mmで挟む。岩片はやや軟質である。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	追記した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
77	20.00	25.00	(地質名欄)空欄	20.00	25.00	(地質名欄)Op	20.00	25.00	(地質名欄)花崗斑岩	-
78	20.05	20.29	風化・変質作用により、全体的に軟質化している。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。上部(20.05~20.09m)及び下部(20.24~20.29m)は、変質が強く、弾性リソリット状を呈する。下部は $\angle 64^\circ$ で下位と横される。	-	-	-	20.05	20.29	20.05~20.29m:風化・変質作用により、全体に軟質化する。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。20.05~20.09m間及び20.24~20.29m間は変質が強く、弾性リソリット状を呈する。下部は傾斜 64° で下位と横される。	-
79	20.29	20.90	上位と比べて風化・変質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱。	-	-	-	20.29	20.90	20.29~20.90m:風化・変質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱である。	-
80	20.48	20.50	巾15mm、 $\angle 24^\circ$ 、変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.48	20.50	幅15mm、 $\angle 24^\circ$ 、灰白色の変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.48	20.84	20.48~20.84m:傾斜 24° で幅5~15mmの灰白色の砂混じり粘土を3条程度挟む。	記事内容が同じであるため、20.72~20.74m、20.83~20.84mの記事を省いて記載した。
81	20.72	20.74	巾12mm、 $\angle 40^\circ$ 、変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.72	20.74	幅12mm、 $\angle 40^\circ$ 、灰白色変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
82	20.83	20.84	巾9~8、 $\angle 68^\circ$ 、変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.83	20.84	幅9~8mm、 $\angle 68^\circ$ 、灰白色変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
83	21.00	22.00	(最大コア長欄)0	21.00	22.00	(最大コア長欄)2	21.00	22.00	(最大コア長欄)2	-
84	21.00	21.20	全体に割れ目が発達し、片状コア。ただし、21.10~21.15mは短棒状コア。	21.00	21.20	全体に割れ目が発達し、細片状コア。ただし、21.10~21.15mは短棒状コア。	21.00	21.20	21.00~21.20m:全体に割れ目が発達し、細片状を呈する。21.10~21.15mは短棒状を呈する。	-
85	21.69	21.74	幅3mm、 50° の灰白色粘土質土砂。	21.69	21.74	幅3mm、 50° の灰白色粘土質土砂を挟む。	21.69	21.74	21.69~21.74m:傾斜 50° で幅3mmの灰白色粘土質土砂を挟む。	-
86	21.73	-	21.73mから $\phi 1\sim 3$ cm程度の塊状コアとなる。	21.73	22.00	21.73m~22.00mは $\phi 1\sim 3$ cm程度の塊状コアとなる。	21.73	22.00	21.73m~22.00m:径1~3cm程度の塊状を呈する。	-
87	22.39	22.63	網状割れ目発達し、割れ目ぞいに劣化。	22.42	22.63	微細な割れ目発達し、割れ目ぞいに劣化。	22.42	22.63	22.42~22.63m:微細な割れ目が発達し、割れ目ぞいに劣化する。	-
88	22.39	22.42	(コアの形状欄)Vランク	22.39	22.42	(コアの形状欄)Vランク	22.39	22.42	(コアの形状欄)Vランク	-
89	22.39	22.63	(色調欄)5YR7/2 明褐灰	22.42	22.63	(色調欄)5YR7/2 明褐灰	22.42	22.63	(色調欄)明褐灰	-
90	22.63	23.71	割れ目多く、 $\phi 1\sim 3$ cmの角塊状コア。	-	-	-	22.63	23.71	22.63~23.71m:割れ目が多く、径1~3cmの角塊状を呈する。	-
91	23.71	23.85	長さ3~9cmの短棒状コア。23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。	-	-	-	23.71	23.85	23.71~23.85m:長さ3~9cmの短棒状コアとなる。23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。	-
92	23.85	24.48	$\phi 1\sim 5$ cmの片状コアを呈する。岩片は硬質であるが、割れ目ぞいに $\phi 0.2\sim 1$ mm程度の細片が認められる。	23.85	24.48	$\phi 1\sim 5$ cmの岩片状コアを呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目ぞいに $\phi 0.2\sim 1$ mm程度の細片が認められる。	23.85	24.48	23.85~24.48m:径1~5cmの岩片状を呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目ぞいに $\phi 0.2\sim 1$ mm程度の細片が認められる。	-
93	24.48	25.88	$\phi 0.5\sim 3$ cm程度の塊状~細片状コアを呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、 $\phi 5$ mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響が少ない。	24.48	25.88	$\phi 0.5\sim 3$ cm程度の塊状~細片状コアを呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、 $\phi 5$ mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響が少ない。	24.48	25.88	24.48~25.88m:径0.5~3cm程度の塊状~細片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響は少ない。	-
94	25.00	26.00	(最大コア長欄)0	25.00	26.00	(最大コア長欄)4	25.00	26.00	(最大コア長欄)4	-
95	25.88	26.62	土砂~塊状を呈するコア。岩片は $\phi 5\sim 15$ mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は $\phi 5\sim 50$ mmのものを主体とする。変質が強いシルト質粘土質土砂で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	土砂~塊状を呈するコア。岩片は $\phi 5\sim 15$ mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は $\phi 5\sim 50$ mmのものを主体とする。変質が強いシルト質粘土質土砂で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	25.88~26.62m:土砂~塊状を呈する。岩片は径5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は径5~50mmのものを主体とする。基質はシルト質粘土質土砂で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	-
96	26.62	27.62	5~15mm程度で網状に割れ目が発達し、割れ目ぞいに岩質劣化し、土砂~細片状を呈する。	26.62	27.62	5~15mm程度で網状に割れ目が発達し、割れ目ぞいに岩質劣化し、土砂~細片状を呈する。	26.62	27.62	26.62~27.62m:5~15mm間隔で網目状に割れ目が発達し、割れ目ぞいは土砂~細片状を呈する。	-
97	27.28	27.62	上位と比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、 $\phi 1\sim 3$ cmの岩片状コアを呈する。	27.28	27.62	上位と比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、 $\phi 1\sim 3$ cmの岩片状コアを呈する。	27.28	27.62	27.28~27.62m:上位に比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状を呈する。	-
98	27.47	27.62	$\angle 60\sim 65^\circ$ の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	27.47	27.62	$\angle 60\sim 65^\circ$ の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	27.47	27.62	27.47~27.62m:傾斜 $60\sim 65^\circ$ の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2			コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	適正化された記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
99	27.62	27.62			中1~2mm、黄灰色砂泥じりシルト、 $\angle 65^\circ$ (真かけ右スレ新層)→逆断層			27.62m、傾斜 65° で幅1~2mmの黄灰色砂泥じりシルトを不連続に挟む。シルトの周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
100	27.62	27.97			網状に割れ目密集し、コアはやや脆弱となる。	-	-	27.62~27.97m: 網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	
101	27.92	28.21			$\angle 80\sim 75^\circ$ の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、 $\angle 20\sim 25^\circ$ の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。	-	-	27.92~28.21m: 傾斜 $80\sim 75^\circ$ の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜 $20\sim 25^\circ$ の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。	
102	28.21	28.50			2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。	28.21	28.50	28.21~28.50m: 2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。	
103	28.36	28.45			28.36~28.45m間には、 $\angle 30^\circ$ 程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達している。	-	-	28.36~28.45m: 傾斜 30° 程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。	
104	28.45	28.50			岩石組織不明瞭となる。上 $\angle 55^\circ$ 、下 $\angle 50^\circ$ の帯状カクレースイッチ?	28.45	28.50	28.45~28.50m: 上傾 55° 、下傾 50° で原岩組織が不明瞭となる。	
105	28.50	28.66			破砕帯(主せん断面28.50m)	28.50	28.66	破砕帯(最新活動面28.50m)	
106	28.50	28.51			砂泥じり粘土状破砕帯(Hc-2)	28.50	28.51	●28.50~28.66m: 破砕帯 28.50~28.51m: 礫部(粘土状部(Hc-2)) 上傾 50° 、下傾 50° 、径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。 幅1~1.5mm。 28.51~28.53m: 粘土泥じり礫状部(Hc) 上傾 50° で直線的に連続。径5mm以下の岩片を10%程度含む。砂泥じり粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、黄灰色を呈する。幅1~1.5mm、軟質。 28.53~28.56m: 粘土泥じり角礫状部(Hc) 上傾 40° で波打って連続。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にない黄灰色を呈する。幅120mm。	
107	28.50	28.53			砂・細泥泥じりシルト状破砕帯(Hb)、巾23~30mm、上傾 $\angle 50^\circ$ 、下傾 $\angle 40^\circ$ 。 砂・細泥泥じりシルト(Hb)を主として、上端に巾1~1.5mm黄白粘土(Hc-2)が認められる。	28.51	28.53	粘土泥じり礫状部(Hc)、幅23~30mm、上傾 $\angle 50^\circ$ で直線的に、下傾 $\angle 40^\circ$ で波打って連続。 砂・細泥泥じりシルト(Hb)を主として、上端に巾1~1.5mm黄白粘土(Hc-2)が認められる。 径10mm以下の岩片を主体として、幅1~2mmの軟質な黄灰色粘土を網目状に伴う。軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、黄灰色を呈する。幅1~1.5mm、にない黄灰色を呈する。	
108	28.53	28.66			粘土泥じり角礫状(Hc)、巾12cm、上傾 40° 、下傾は不明瞭。 全体に岩組織不明瞭で、不規則に粘土細隙が分布する。下端は岩質劣化と接し、境界は不明瞭である。	28.53	28.66	粘土泥じり角礫状(Hc)、幅12cm、上傾 40° で波打って連続。下傾は不明瞭。 全体に岩組織不明瞭で、不規則に粘土細隙が分布する。下端は岩質劣化と接し、境界は不明瞭である。 径5~20mmの岩片からなり、細粒部は局所的に分布する。軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、黄灰色を呈する。幅1~1.5mm、にない黄灰色を呈する。	
109	28.51	28.53			(破砕度区分)Hb	28.51	28.53	(破砕度区分)Hc	
110	28.00	28.71			土砂状を呈する岩質劣化部。	-	-	28.66~28.71m: 土砂状を呈する。	
111	28.71	29.45			$\angle 40^\circ$ 及び $\angle 80^\circ$ の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、コアは片状を呈する。割れ目にはしばしばマンガンを伴う。	28.71	29.45	28.71~29.45m: 傾斜 40° 及び 80° の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目にはしばしばマンガンを伴う。	
112	28.83	29.16			28.83~29.16m間は上下位と比べて硬質となる。	28.83	29.16	28.83~29.16m間は上下位と比べてやや硬質となる。	
113	29.16	29.45			29.16~29.45m間は風化・変質進行し、岩質劣化し脆弱。	-	-	29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。	
114	29.45	29.91			岩石組織、割れ目不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。	29.45	29.91	29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。	
115	29.76	29.81			硬質部を塊状に含む。	-	-	29.76~29.81m: 硬質部を塊状に含む。	
116	29.81	29.87			マンガン汚染帯がある。	-	-	29.81~29.87m: マンガン汚染帯がある。	
117	29.81	30.21			片状コア。	29.81	30.21	片状コア。	
118	29.01	30.21			$\angle 40\sim 55^\circ$ の割れ目が0.2~2cm間隔で発達。割れ目によって岩石組織が不明瞭となることもある。コアは全体に褐色を帯びる。	29.01	30.21	$\angle 40\sim 55^\circ$ の割れ目が0.2~2cm間隔で発達。割れ目によって岩石組織が不明瞭となることもある。コアは全体に褐色を帯びる。	